

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人共友会	代表者	岩尾 貢	法人・事業所の 特徴	当ホームは古民家を改修した、懐かしい木の温もりを感じさせるともアットホームな事業所である。また、はしたての事業所がある「橋立町」は町民同士のつながりが強くご近所との付き合いもある所である。地域住民の方に事業所を理解して頂くためにも地域の行事にも参加している。登録利用者様に対しては関わりを大切にしながら信頼関係が築けるように常にスタッフが意識しながら関わっている。地域の中で暮らす一人暮らしや日中ご家族が留守の為、一人で過ごされている方にお弁当を宅配しており、見守りを兼ねた支援をしている。
事業所名	小規模多機能ホーム はしたて	ホーム長	田中 直也		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	2人	5人	0人	1人	2人	1人	7人	人	20人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策を行いながら、法人、事業所、地域の皆様と相談し、運営推進会議や地域交流等を少しずつ開催していく。 運営推進会議で橋立地区の色々な方々にも参加して頂き、事業所の目的や活動内容等を映像や写真等を見ていただき普段の様子や暮らしの部分を報告する。 ご利用者の方との関わりと関係性を築き、本人の思い、楽しみ、やりがい等を実践し満足のできる暮らしを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス禍においてはあったが、感染が落ち着いた7月に1度だけ運営推進会議を行うことができた。その他は運営推進会議録を①現状報告、②活動報告（行事、研修、学習会等）③橋立地区高齢者こころまちセンター活動報告等をメンバーの皆様にお渡しした。 出来ていない点について職員の意見を聞きながら出来る事から実行した。 実践できることに対して、職員間で話し合いながら係を決めた。係を中心にスタッフ会議の場を通して計画をスタッフ全員で検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においては、感染対策をといても事業所の感染対策に準じたフェーズを基に会議や活動等の取り決めをされている。 出来る所は確実にいき、少しずつ取り組んでいったら良いと思う。 出来ていないところは、なんでできないのかをきっちり取り上げ一つずつ解決に繋げていけば良いのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策において、当法人の感染対策フェーズ表を基にその時の状況によって法人、事業所、地域の皆様と相談し、運営推進会議や地域交流等を少しずつ開催していく。 運営推進会議では橋立地区の色々な方々にも参加して頂き、事業所の目的や活動内容等を映像や写真等を見ていただき普段の様子や暮らしの部分を報告していく。 ご利用者の方との丁寧な関わりを行い、信頼関係を築き、本人の思いや楽しみ、やりがい等を実践し満足のできる暮らしを目指すしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策をしながら、地域の方と相談し交流が図れるようにイベント、フェスタ、防災訓練、お祭りなど地域との交流が図れるような雰囲気構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス禍により地域の方と交流、行事の開催や、おでん会等が全て中止となった。 コロナ感染対策では、玄関先での検温、アルコール消毒を玄関、室内等合わせて5か所設置し、各 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は全く事業所への出入りはなかった。来づらいということではないが、用事もないし来たとしても自分の居場所がないのでポツンとなってしまっているのでは。 日頃から介護などについての縁 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、新型コロナウイルス感染対策をしながら、地域の方と相談し事業所内でできるイベント、毎月のお伝の会、月参り等の実施や地域でのフェスタ、防災訓練、お祭りなど地域との交流

	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のおでんの会やイベントに来て頂いたり、町のサロン、地域型元気はつらつ塾等の参加を行っていく。 	<p>テーブルにはアクリル板での飛沫防止対策を行った。また、感染状況に合わせ法人独自のフェーズでスタッフや利用者の動きの取り決めによって制限等の徹底を図った。</p>	<p>がないとなかなか入りづらいとか、敷居が高いとか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はしたては古民家的でちょっと暗い感じはしたが、家庭的な雰囲気がありスタッフも良いですし一緒に食事もしたりして施設というイメージがないのが良いと思います。 ・道路に面していて窓も大きく中も見えるので良いと思う。 	<p>が図れるよう地域全体で取り組めるよう相談していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町のサロン、地域型元気はつらつ塾等の参加を行っていく。
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関りは、橋立町に限らず、橋立地区の方々との関わりを持つためにもスタッフが町に出て行くようなことを考えて行く。地道に丁寧に地域に根付けるようにする。 ・挨拶はこちらから笑顔で元気よくお声をかけることは継続していく。 ・行事等の地域の方の参加については、魅力あるイベント内容や相談し易いスタッフの関わりを考えて行く。 ・「町の保健室」として、看護師が橋立地区のちょっとした相談（病気のこと、病院のこと、どこの病院やどこの科に行ったら良いか等）窓口を築いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問で地域に出向いた際は、スタッフの方からすすんで挨拶をするように心がけた。 ・橋立元気クラブ（サロン）が昨年、事実上解散となってしまいました。世話役の交代の件やコロナの件で。しかし、住民の方からは、「やっぱり集まってお話しできる場がほしい」「さみしい」などいろんな声があり、地域住民で再開に向け準備をしている。 ・イベントや暦の行事なども全て中止となった。長寿会、子供会、学童等にお声かけが出来ず交流が図れなかった。 ・観光客にも地域のものも、スタッフも挨拶をしている。道に迷っている方がおいでたら一言声をかけている。 ・地域にお知らせする方法として、ポスティングや有線放送を利用している。 ・「町の保健室」の立ち上げでは運営推進会議において目的と今後の活動について説明し、地域へチラシの配布やサロン、地域型元気はつらつ塾、はしたて広報の掲載などでお知らせし活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋立町の方々はずでに関わりを持ち事業所の事はだいたい把握はしていると思うが、他の町の方々になると分かっているのか。 ・挨拶はスタッフの方から元気よくされています。スタッフには家族のように馴染みやすく、余計なことまで言うてしまうくらいです。 ・観光客の方々には事業所のスタッフも地域の一人として挨拶をしてほしい。道に迷っている方がおいでたら一言声をかけほしい。 ・実際に孤独死問題もあるから、ここと地域全体が考えて行かないかと思っている。 ・相談や問題等が出て来た時に相談する場所があると分かっているだけで今は良いと思っている。若い人たちはまだまだ関心が無い。 ・今年度「町の保健室」の立ち上げでチラシやサロンでの説明、はしたて広報で告知していたので知っている。看護師への相談できる窓口は良いことである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策においても事業所と地域との感染対策についても工夫をし相談をしながら行っていく。 ・地域の方々との関りは、橋立町に限らず、橋立地区の方々との関わりを持つためにもスタッフが地域に出て自然に地域に根付けるような意識を持つ。 ・挨拶はこちらから笑顔で元気よくお声をかけることは継続していく。 ・行事等の地域の方の参加については、魅力あるイベント内容や相談し易いスタッフの関わりを考えて行く。 ・「町の保健室」として、看護師が橋立地区のちょっとした相談（病気のこと、病院のこと、どこの病院やどこの科に行ったら良いか等）窓口を築いていく。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はしたてお祭り、はしたてフェスタ、防災訓練への参加を積極的に行う。 ・地域で開催される催しものがあればお知らせを頂き、ご利用者の方と参加をする。 ・各町ごとのサロンやサークルには事前に日程が確認できるのでご利用者と一緒に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われるイベントには利用者の方と一緒に出掛ける事ができた。また、地域の方からイベントの声かけをして頂く事もあり、利用者の方もスタッフも地域に出向く機会が増えた。 ・はしたての広報も毎月、職員が意識をして目を通すことができた。 ・毎月の橋立町げんきクラブは毎月参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この項目については、わからないと回答した。地域のものが事業所に常時いて様々な活動等を見て確認して出来ているんだなあと思うのでは。 ・地域の防災訓練の参加できていたが、橋立フェスタは中止となった。 ・年間の日程が決まっていることは、事業所の体制も整えやすいと思うので、地域に根ざした参加を積極的に出来たらいいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各町ごとのサロンやサークルには事前に日程が確認できるので参加をする。 ・はしたてお祭り、はしたてフェスタ、防災訓練への参加をご利用者の方と共に行う。 ・地域で開催される催しものあればお知らせを頂き、ご利用者の方と参加をする。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・橋立地区でのマッピング作成を利用した「防災対策」を地域全体で考えて行く。 ・すぐ取り組めるものは早急に取り組めるよう、スタッフ会議で検討していく。困難な項目については時間をかけ前向きに取り組んでいくように努力する。 ・「町の保健室」として橋立地区で安心した医療・看護のちょっとした相談窓口を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は全て中止となった。コロナ禍であっても地域の方々から頂いたご意見はスタッフ会議の場を通して職員に伝え、取り組みに活かせるものに関してはスタッフ間で情報の共有を図った。 活動実績にまでは至っていないが係を決めて計画を立て着実に実行できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はしたて地区のマッピング作成は防災の意味も含め地区の中にもどのような方がおられるのかを把握するには良かった内容であたったが、それを地域全体でどう取り組むか一緒に考えて行ければ良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋立地区でのマッピング作成に関しては各町の区長や民生委員の方にお声をかけ「地域防災対策」を基に地域全体で考えて行く。 ・運営推進会議で挙げた内容は早急に取り組めるよう、スタッフ会議で検討していく。困難な項目については時間をかけ前向きに取り組んでいくように努力する。 ・「町の保健室」として橋立地区で安心した医療・看護のちょっとした相談窓口を築く。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害（台風、地震、火事、津波、高潮など）様々な災害がある。日中、夜間のスタッフでどれだけの事が出来るのか。区長の判断や地域の協力は必要だと思う。どう協力体制を整えるのかを地域と一緒に考える。 ・消防訓練・避難訓練・消火器訓練は年に2回行い地域の方々に参加してもらい行っていく。 ・地域の要介護の方々車いす等の身体的や精神的に支援の必要な方々は誰が助けるのか。そのような事を事業所も交えて話を進めて行きたい。もちろん事業所も地域の一員として一緒に考えて行きたい。 ・新型コロナウイルス感染対策等の情報共有も地域の方々と行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練は新型コロナウイルス禍により中止となった。今後、地域の防災訓練には参加して地域の一員として防災意識を持って行くようスタッフと話し合った。 ・火災時の警報器については、音量の調整が可能か業者に依頼し確認した。これ以上の大きな音には出来ない。警報器は鳴らすが、警報器にだけ頼らず、どのように近所の方に知らせるか職員で話し合った。 ・防火管理者を中心に独自の防災訓練のシミュレーションを行なった。まずは、職員が避難場所や避難経路を確実に知っておかないといけないので、防災マップを作り、職員間の情報共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所を頼りにするというよりは逆に助けてあげないといけないと思っている。 ・地域の要介護の方々車いす等の身体的や精神的に支援の必要な方々は誰が助けるのか。そのような事を事業所も交えて話を進めて行きたい。もちろん事業所も地域の一員として一緒に考えて行きたい。 ・自然災害（台風、地震、火事、津波、高潮など）様々な災害がある。日中、夜間のスタッフでどれだけの事が出来るのか。区長の判断や地域の協力は必要だと思う。どう協力体制を整えるのか考えないといけない。 ・消防訓練・避難訓練・消火器訓練は年に2回行っている。コロナ禍で地域の方々の参加は難しいと思う。 ・災害マップは活用されているのか。 ・台風や大雨の時等、海側の岩が浸食されてきている。100年前とはだいぶ変わって来た。海側は波が高くなると危ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策等の情報共有は地域の方々と行っていく。 ・自然災害（台風、地震、火事、津波、高潮など）様々な災害がある。日中、夜間のスタッフでどれだけの事が出来るのか。区長の判断や地域の協力は必要だと思う。どう協力体制を整えるのかを地域と一緒に考える。 ・消防訓練・避難訓練・消火器訓練は年に2回行い地域の方々に参加してもらい行っていく。 ・地域の要介護の方々車いす等の身体的や精神的に支援の必要な方々は誰が助けるのか。そのような事を事業所も交えて話を進めて行きたい。もちろん事業所も地域の一員として一緒に考えて行きたい。
----------------------------	--	--	--	--

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人共友会	代表者	岩尾 貢	法人・事業所の 特徴	当ホームは古民家を改修した、懐かしい木の温もりを感じさせるとてもアットホームな事業所である。また、はしたての事業所がある「橋立町」は町民同士のつながりが強くご近所との付き合いもある所である。地域住民の方に事業所を理解して頂くためにも地域の行事にも参加している。登録利用者様に対しては関わりを大切にしながら信頼関係が築けるように常にスタッフが意識しながら関わっている。地域の中で暮らす一人暮らしや日中ご家族が留守の為、一人で過ごされている方に、お弁当を宅配しており、見守りを兼ねた支援をしている。
事業所名	小規模多機能ホーム はしたて	ホーム長	田中 直也		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	2人	5人	0人	1人	2人	1人	7人	人	20人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策を行いながら、法人、事業所、地域の皆様と相談し、運営推進会議や地域交流等を少しずつ開催していく。 運営推進会議で橋立地区の色々な方々にも参加して頂き、事業所の目的や活動内容等を映像や写真等を見ていただき普段の様子や暮らしの部分を報告する。 ご利用者の方との関わりと関係性を築き、本人の思い、楽しみ、やりがい等を実践し満足のできる暮らしを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス禍においてはあったが、感染が落ち着いた7月に1度だけ運営推進会議を行うことができた。その他は運営推進会議録を①現状報告、②活動報告（行事、研修、学習会等）③橋立地区高齢者こころまちセンター活動報告等をメンバーの皆様にお渡しした。 出来ていない点について職員の意見を聞きながら出来る事から実行した。 実践できることに対して、職員間で話し合いながら係を決めた。係を中心にスタッフ会議の場を通して計画をスタッフ全員で検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においては、感染対策をといても事業所の感染対策に準じたフェーズを基に会議や活動等の取り決めをされている。 出来る所は確実にいき、少しずつ取り組んでいったら良いと思う。 出来ていないところは、なんでできないのかをきっちり取り上げ一つずつ解決に繋げていけば良いのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策において、当法人の感染対策フェーズ表を基にその時の状況によって法人、事業所、地域の皆様と相談し、運営推進会議や地域交流等を少しずつ開催していく。 運営推進会議では橋立地区の色々な方々にも参加して頂き、事業所の目的や活動内容等を映像や写真等を見ていただき普段の様子や暮らしの部分を報告していく。 ご利用者の方との丁寧な関わりを行い、信頼関係を築き、本人の思いや楽しみ、やりがい等を実践し満足のできる暮らしを目指す。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策をしながら、地域の方と相談し交流が図れるようにイベント、フェスタ、防災訓練、お祭りなど地域との交流が図れるような雰囲気構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス禍により地域の方と交流、行事の開催や、おでん会等が全て中止となった。 コロナ感染対策では、玄関先での検温、アルコール消毒を玄関、室内等合わせて5か所設置し、各 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は全く事業所への出入りはなかった。来づらいということではないが、用事もないし来たとしても自分の居場所がないのでボツンになってしまうのでは。 日頃から介護などについての縁 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、新型コロナウイルス感染対策をしながら、地域の方と相談し事業所内でできるイベント、毎月のお伝の会、月参り等の実施や地域でのフェスタ、防災訓練、お祭りなど地域との交流

	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のおでんの会やイベントに来て頂いたり、町のサロン、地域型元気はつらつ塾等の参加を行っていく。 	<p>テーブルにはアクリル板での飛沫防止対策を行った。また、感染状況に合わせ法人独自のフェーズでスタッフや利用者の動きの取り決めによって制限等の徹底を図った。</p>	<p>がないとなかなか入りづらいというか、敷居が高いというか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はしたては古民家的でちょっと暗い感じはしたが、家庭的な雰囲気がありスタッフも良いですし一緒に食事もしたりして施設というイメージがないのが良いと思います。 ・道路に面していて窓も大きく中も見えるので良いと思う。 	<p>が図れるよう地域全体で取り組めるよう相談していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町のサロン、地域型元気はつらつ塾等の参加を行っていく。
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関りは、橋立町に限らず、橋立地区の方々との関わりを持つためにもスタッフが町に出て行くようなことを考えて行く。地道に丁寧に地域に根付けるようにする。 ・挨拶はこちらから笑顔で元気よくお声をかけることは継続していく。 ・行事等の地域の方の参加については、魅力あるイベント内容や相談し易いスタッフの関わりを考えて行く。 ・「町の保健室」として、看護師が橋立地区のちょっとした相談（病気のこと、病院のこと、どこの病院やどこの科に行ったら良いか等）窓口を築いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問で地域に出向いた際は、スタッフの方からすすんで挨拶をするように心がけた。 ・橋立元気クラブ（サロン）が昨年、事実上解散となってしまいました。世話役の交代の件やコロナの件で。しかし、住民の方からは、「やっぱり集まってお話しできる場がほしい」「さみしい」などいろいろな声があり、地域住民で再開に向け準備をしている。 ・イベントや暦の行事なども全て中止となった。長寿会、子供会、学童等にお声かけが出来ず交流が図れなかった。 ・観光客にも地域のものも、スタッフも挨拶をしている。道に迷っている方がおいでたら一言声をかけている。 ・地域にお知らせする方法として、ポスティングや有線放送を利用している。 ・「町の保健室」の立ち上げでは運営推進会議において目的と今後の活動について説明し、地域へチラシの配布やサロン、地域型元気はつらつ塾、はしたて広報の掲載などでお知らせし活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋立町の方々はずでに関わりを持ち事業所の事はだいたい把握はしていると思うが、他の町の方々になると分かっているのか。 ・挨拶はスタッフの方から元気よくされています。スタッフには家族のように馴染みやすく、余計なことまで言ってしまうくらいです。 ・観光客の方々には事業所のスタッフも地域の一人として挨拶をしてほしい。道に迷っている方がおいでたら一言声をかけほしい。 ・実際に孤独死問題もあるから、ここと地域全体が考えて行かないかと思っている。 ・相談や問題等が出て来た時に相談する場所があると分かっているだけで今は良いと思っている。若い人たちはまだまだ関心がない。 ・今年度「町の保健室」の立ち上げでチラシやサロンでの説明、はしたて広報で告知していたので知っている。看護師への相談できる窓口は良いことである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策においても事業所と地域との感染対策についても工夫をし相談をしながら行っていく。 ・地域の方々との関りは、橋立町に限らず、橋立地区の方々との関わりを持つためにもスタッフが地域に出て自然に地域に根付けるような意識を持つ。 ・挨拶はこちらから笑顔で元気よくお声をかけることは継続していく。 ・行事等の地域の方の参加については、魅力あるイベント内容や相談し易いスタッフの関わりを考えて行く。 ・「町の保健室」として、看護師が橋立地区のちょっとした相談（病気のこと、病院のこと、どこの病院やどこの科に行ったら良いか等）窓口を築いていく。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はしたてお祭り、はしたてフェスタ、防災訓練への参加を積極的に行う。 ・地域で開催される催しものがあればお知らせを頂き、ご利用の方と参加をする。 ・各町ごとのサロンやサークルには事前に日程が確認できるのでご利用と一緒に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われるイベントには利用者の方と一緒に出掛ける事ができた。また、地域の方からイベントの声かけをして頂く事もあり、利用者の方もスタッフも地域に出向く機会が増えた。 ・はしたての広報も毎月、職員が意識をして目を通すことができた。 ・毎月の橋立町げんきクラブは毎月参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この項目については、わからないと回答した。地域のものが事業所に常時いて様々な活動等を見て確認して出来ているんだなあと思うのでは。 ・地域の防災訓練の参加できていたが、橋立フェスタは中止となった。 ・年間の日程が決まっていることは、事業所の体制も整えやすいと思うので、地域に根ざした参加を積極的に出来たらいいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各町ごとのサロンやサークルには事前に日程が確認できるので参加をする。 ・はしたてお祭り、はしたてフェスタ、防災訓練への参加をご利用の方と共に行う。 ・地域で開催される催しものあればお知らせを頂き、ご利用の方と参加をする。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・橋立地区でのマッピング作成を利用した「防災対策」を地域全体で考えて行く。 ・すぐ取り組めるものは早急に取り組めるよう、スタッフ会議で検討していく。困難な項目については時間をかけ前向きに取り組んでいくように努力する。 ・「町の保健室」として橋立地区で安心した医療・看護のちょっとした相談窓口を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は全て中止となった。コロナ禍であっても地域の方々から頂いたご意見はスタッフ会議の場を通して職員に伝え、取り組みに活かせるものに関してはスタッフ間で情報の共有を図った。 活動実績にまでは至っていないが係を決めて計画を立て着実に実行できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はしたて地区のマッピング作成は防災の意味も含め地区の中にもどのような方がおられるのかを把握するには良かった内容であたったが、それを地域全体でどう取り組むか一緒に考えて行ければ良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋立地区でのマッピング作成に関しては各町の区長や民生委員の方にお声をかけ「地域防災対策」を基に地域全体で考えて行く。 ・運営推進会議で挙げた内容は早急に取り組めるよう、スタッフ会議で検討していく。困難な項目については時間をかけ前向きに取り組んでいくように努力する。 ・「町の保健室」として橋立地区で安心した医療・看護のちょっとした相談窓口を築く。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害（台風、地震、火事、津波、高潮など）様々な災害がある。日中、夜間のスタッフでどれだけの事が出来るのか。区長の判断や地域の協力は必要だと思う。どう協力体制を整えるのかを地域と一緒に考える。 ・消防訓練・避難訓練・消火器訓練は年に2回行い地域の方々に参加してもらい行っていく。 ・地域の要介護の方々車いす等の身体的や精神的に支援の必要な方々は誰が助けるのか。そのような事を事業所も交えて話を進めて行きたい。もちろん事業所も地域の一員として一緒に考えて行きたい。 ・新型コロナウイルス感染対策等の情報共有も地域の方々と行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練は新型コロナウイルス禍により中止となった。今後、地域の防災訓練には参加して地域の一員として防災意識を持って行くようスタッフと話し合った。 ・火災時の警報器については、音量の調整が可能か業者に依頼し確認した。これ以上の大きな音には出来ない。警報器は鳴らすが、警報器にだけ頼らず、どのように近所の方に知らせるか職員で話し合った。 ・防火管理者を中心に独自の防災訓練のシミュレーションを行なった。まずは、職員が避難場所や避難経路を確実に知っておかないといけないので、防災マップを作り、職員間の情報共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所を頼りにするというよりは逆に助けてあげないといけないと思っている。 ・地域の要介護の方々車いす等の身体的や精神的に支援の必要な方々は誰が助けるのか。そのような事を事業所も交えて話を進めて行きたい。もちろん事業所も地域の一員として一緒に考えて行きたい。 ・自然災害（台風、地震、火事、津波、高潮など）様々な災害がある。日中、夜間のスタッフでどれだけの事が出来るのか。区長の判断や地域の協力は必要だと思う。どう協力体制を整えるのか考えないといけない。 ・消防訓練・避難訓練・消火器訓練は年に2回行っている。コロナ禍で地域の方々の参加は難しいと思う。 ・災害マップは活用されているのか。 ・台風や大雨の時等、海側の岩が浸食されてきている。100年前とはだいぶ変わって来た。海側は波が高くなると危ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策等の情報共有は地域の方々と行っていく。 ・自然災害（台風、地震、火事、津波、高潮など）様々な災害がある。日中、夜間のスタッフでどれだけの事が出来るのか。区長の判断や地域の協力は必要だと思う。どう協力体制を整えるのかを地域と一緒に考える。 ・消防訓練・避難訓練・消火器訓練は年に2回行い地域の方々に参加してもらい行っていく。 ・地域の要介護の方々車いす等の身体的や精神的に支援の必要な方々は誰が助けるのか。そのような事を事業所も交えて話を進めて行きたい。もちろん事業所も地域の一員として一緒に考えて行きたい。
----------------------------	--	--	--	--